



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



発達障害のAさんが就労した一般企業に勤めているBさんに、Aさんを職場でどのようにサポートしたら職場に適應できたかという話を聞きました。職場の方がとてもきめ細やかに対応されていて感心するとともに、「学校では障害のある子どもにこんなに適切な支援がされてるのだろうか」と心配になりました。

BさんはAさんが理解できるように、具体的に指示をすることを心がけたそうです。毎日行うことを口で伝えるだけでなく、紙に書いて示します。清掃の仕方、印刷の仕方、それを机上のボードに2～3つずつ付箋で貼り付けます。そうすると、活動の順番がわかり、混乱することもなくなります。また、活動が終わったら付箋を捨てる約束にしているので、Aさんがどれだけ活動が終わったか分かるようです。どこまでできたら報告するかも決めて、報告する上司や時間帯を示し、その時間なら声をかけられることを示しているようです。また、暇な時間を作ると、どうしてもよいか分からなくなってしまうため、「5分でできる仕事」「10分でできる仕事」「15分でできる仕事」を作っておき、就業時間までに自分の仕事が終わった時には、残り時間に合わせて、その仕事をできるようにさせているそうです。

この支援があれば、Aさんは立派に仕事ができます。

はたして、学校では障害のある子どもに適切な支援をしているのでしょうか。ある特別支援学校を観察したときのことで、掃除をしている生徒（C君）が「どこまで（ほうきで）はくのですか？」と質問したところ、「1学期と同じだよ」「よ

く考えなさい」と指示していました。「よく考えなさい」という言葉は、何の疑問もなく、教員が好んで使う言葉です。また、就労先では大きな失敗をしないように、分からないことは質問することが良いことですが、学校では1人で行うことが良いこととされます。適切な支援があって1人でできるようになるのは良いことですが、学校で毎日繰り返されるとできるようになるので、適切な支援をされずに過ごされてしまうことも多く見られます。

私たち教員も、普段の指導について考えてみる必要がありますね。

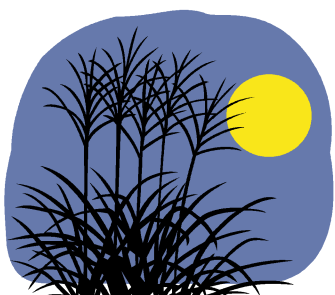
相談依頼の件数(外部支援)H30.4.1～8.31まで

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	115件	111件	29件	2件	8件	265件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しらがね特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp